



平成22年6月2日

**乳幼児の歯磨き中の事故にご注意！**  
～歯ブラシ・歯磨きに係る救急事故の発生状況～

東京消防庁管内では、平成21年中に、乳幼児（6歳以下）の歯磨き中の事故で47人が医療機関に救急搬送されています。

この事故は、いずれも歯ブラシで口腔内を受傷したもので、特に1、2歳児に多く発生しています。歯ブラシを口に入れたまま転倒等した場合、重大な事故になるおそれがあることから、当庁では、**6月4日の『虫歯の日』**を前に、小さな子どもの保護者などに対して注意を呼びかけています。

- 1 年齢別では、1歳児が23人、2歳児が12人で、全体の74.5%を占めています。
- 2 受傷要因別では、「歯磨き中に歩くなどして転倒」が全体の61.7%を占めています。
- 3 年齢別に初診時程度を見ると、不安定ながらも走りまわったりすることができるようになった2歳児の3人に1人が中等症となっており、危険性が高くなっています。

詳細は、添付資料をご覧ください。

東京消防庁では、今後も乳幼児の歯磨きに係る救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

問い合わせ先

東京消防庁（代） 電話 3212 - 2111  
生活安全課生活安全係 内線 4206  
広報課報道係 内線 2345～2349

**乳幼児の歯磨き中の事故にご注意！**  
**～歯磨き中は乳幼児から目を離さないで～**

当庁管内では、平成21年中に6歳以下の乳幼児の歯磨き中の事故で、47人が医療機関に救急搬送されています。

この事故は、いずれも歯ブラシで口腔内を受傷したもので、特徴は次のとおりです。

- ① 年齢別では、1歳児及び2歳児で35人と全体の74.5%を占めています。
- ② 要因別では、「歯磨き中に歩くなどして転倒」が29人と全体の61.7%を占めています。

歯ブラシを口に入れたまま転倒した場合、重大な事故になるおそれがあることから、保護者の方は、「歯磨き中の乳幼児から目を離さない」、「歯磨きの際に歩いたり走ったりさせない」等に配慮してください。

**1 発生件数**

歯磨き中の事故件数は、毎年50件前後発生している。

年	件数
平成18年	44件
平成19年	51件
平成20年	48件
平成21年	47件

**2 要因別の発生状況（平成21年中）**

(1) 要因別発生状況（単位：人）

	歯磨き中に歩く などして転倒	歯磨き中に物や 人にぶつかる	歯磨き中に踏み 台等の高所から 落ちた	その他（不明を 含む。）	計
0歳	1	—	—	—	1
1歳	13	7	—	3	23
2歳	7	2	2	1	12
3歳	5	—	1	—	6
4歳	1	—	—	2	3
5歳	2	—	—	—	2
6歳	—	—	—	—	0
計	29	9	3	6	47

(2) 初診時程度別発生状況（単位：人）

「歯磨き中に踏み台等の高所から落ちた」場合は、3件中1件で中等症以上となっており、他の要因と比べ中等症以上となる割合が高い。

	歯磨き中に歩く などして転倒	歯磨き中に物や 人にぶつかる	歯磨き中に踏み 台等の高所から 落ちた	その他（不明を 含む。）	計
軽症	27	9	2	6	44
中等症	2	—	1	—	3
計	29	9	3	6	47

（凡例）中等症：生命の危険はないが、入院の必要があるもの  
 軽症：入院の必要がないもの

### (3) 初診時程度別年齢別発生状況（単位：人）

年齢別に見ると、不安定ながらも走りまわったりすることができるようになった2歳児の3人に1人が中等症となっており、この年齢での危険性の高いことがわかる。

	軽 症	中等症	計
0歳	1	—	1
1歳	23	—	23
2歳	9	3	12
3歳	6	—	6
4歳	3	—	3
5歳	2	—	2
6歳	—	—	0
計	44	3	47

### 3 主な救急事事故事例

- (1) 2歳男児が椅子の上に立って歯ブラシを口に入れていたところ、椅子から転落し、歯ブラシが口の中に刺さったもの。（中等症）
- (2) 3歳女児が踏み台の上に立って歯を磨いていたところ、前のめりに転落し、歯ブラシで口の中を切ったもの。（軽症）
- (3) 2歳女児が歯ブラシを口に入れたまま、追いかっこをして走りまわっていたところ転倒し、歯ブラシで口の中を切ったもの。（軽症）
- (4) 1歳女児が歯ブラシを口に入れたまま、ドア（開き戸）を開け閉めして遊んでいたところ、ドアが歯ブラシにぶつかり口の中を切ったもの。（軽症）
- (5) 1歳女児が歯ブラシを口に入れ走りまわっていたところ、ソファとぶつかり口の中を切ったもの。（軽症）

### 4 事故防止のポイント

歯ブラシが口の中に刺さって中等症となった事故も発生していることから、保護者等は乳幼児の歯ブラシの使用に際して十分な注意が必要です。

- (1) 幼児は転倒しやすいので、歯ブラシを口に入れたまま歩きまわらせない。
- (2) 不安定な場所で歯磨き中に転落して受傷した例もあることから、椅子や踏み台等に立った状態のままで歯磨きをさせない。
- (3) 歯磨き中に他の人と接触して受傷した例もあることから、歯磨き中は乳幼児から目を離さないようにするとともに周囲の状況にも気を配るようこころがける。